

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091100505		
法人名	社会福祉法人 恵光会		
事業所名	グループホーム 光の丘		
所在地	福岡市南区若久団地9-1 (電話) 092-984-0013		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 12 日	評価結果確定日	令和 5 年 12 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

病院が母体にあり、他にも特別養護老人ホーム・グループホーム介護老人保健施設などの施設があり、連携を図っている。かかりつけ医（原病院）が近隣にあり、入所者それぞれに主治医がついている為、急変時等迅速に対応できる。毎月イベント（季節行事）を行い、歌やゲームなど楽しんで頂けるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 10 月 30 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

豊かな自然に囲まれ、集合住宅やマンション、戸建て住宅が立ち並ぶ住宅団地の中央に位置する事業所は、特別養護老人ホームが併設されており、隣接する敷地には、母体法人の病院や介護老人保健施設もあるため、24時間体制での医療・介護体制が提供されている。事業所の理念として謳われている「地域住民の一人として」を実現するために、団地内で行われているカフェやサロンへ参加したり、事業所駐車場で開催されるマルシェへ協力したりと、積極的に地域活動に取り組んでいる。利用者が「その人らしく暮らし続けられる」ように、職員は日々の介護の質や、毎月のイベントなど、自発的に提案し取り組む風土がある。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域住民の一人としてその人らしい暮らしを続けられるように支援する事を理念として掲げ、フロアミーティングなどで唱和し、日頃の実践に繋げるよう努めている	地域密着型の視点がある独自の理念があり、職員は毎月のミーティングで唱和している。地域行事に参加する前には、事業所の理念を管理者や職員で共有する等、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回のペースで開催されているURコミュニティ主催の「にこにこカフェ」や年に数回開催されるフェスタ・マルシェや自治会主催のサロンなどに利用者とその家族で参加し交流している	団地内に設置されているコミュニティアドバイザーと協力しながら、カフェやサロンへ参加したり、マルシェに出店する等、事業所が団地の一員となるように活動を行っている。感染状況を見ながら、近隣幼稚園との交流も検討している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症について話をしたりして地域の人々に向けて発信している	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議で利用者やサービスの実際を報告し話し合っている 評価への取り組みとして6月に消防署立ち合いの避難訓練を行った 事前に地域の人達にも声掛けし発信して、参加を頂いた	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。参加者は、利用者家族や自治会長、民生委員、地域包括支援センター、UR生活アドバイザーであり、事業所の取り組み状況の報告や、外部評価の取り組み報告等を行っている。会議の中で「認知症を理解したい」という意見があがったため、次回の会議の中で認知症の研修を実施した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の職員と直接連絡を取り合うことはほとんどないが、いきいきセンターの担当職員とは2ヶ月に一度の運営推進会議で事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当窓口へは、主治医意見書の確認や事業所の空床情報の提供等について、窓口や電話でやり取りを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の特養と共に身体拘束廃止委員会を設けて、年に2回身体拘束についての研修会を開き、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所は身体拘束を行わない方針である。法人の身体拘束虐待防止委員会に参加し、また法人内研修を行うことで、身体拘束の弊害や、正しい知識を理解するようにしている。玄関の鍵は、日中開放しており、エレベーターホールに受付や事務スペースを設置することで、常時見守りができる体制をとっている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	委員を中心に毎月委員会に参加し報告する事で職員一人一人が注意を払い、虐待防止に努めている 年に2回研修会を開き学ぶ機会を持っている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名成年後見制度を利用中である 内部研修等で職員が学ぶ機会を設けている 日常生活自立支援事業は実際に各々のプランの見直し時や日々の業務の中で自立支援を前提に話し合っている	事業所の玄関には成年後見制度のパンフレットを設置し、必要に応じて説明を行っている。権利擁護に関する制度について、職員は定期的に研修を受け、知識を深めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際家族や利用者の不安が少しでも軽減できるように、説明を行う様にしている 後日いつでも質問に答えられる環境を整えている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日頃の関わりの中で意見や思いを把握し、レクリエーション活動や食事等意見を反映している 家族については面会時に積極的に意見を聞くように声掛けしている	年に2回、事業所の行事に合わせて家族会を開催し、家族の意見を聴くようにしている。利用者から食べたい食事の希望があった時は、和食である朝食をパン食に変更したり、家族に持ってきてもらう等、希望を反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族からは外出の機会を増やして欲しいとの意見が多く、地域交流も兼ねて地域のイベント等に参加し外に出る機会を作っている 管理者は日頃から職員の表情や勤務態度に目を向け必要に応じて面談をしている 職員は各委員会活動時やミーティング時に、職場の安全衛生や業務改善について意見を述べる等している	毎月の行事は、担当職員を決めて、担当者が企画している。また管理者は、職員が主体的に提案できるように心がけ、要望しやすいように声かけを行っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップのために外部研修等への参加を促している 年3回賞与時に自己評価を行なっている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別・年齢等制限なく幅広い世代で採用している 職員の能力向上の為認知症介護実践者研修等の受講を推進している 職員の得意分野を活かせるように行事等の企画を任せている	事業所には幅広い年代の職員がおり、定年は設定されているが、延長が可能である。 職員採用は法人が一括で行っており、性別や年齢で制限することはない。また、法人内事業所へ異動し、能力や適正に合わせて働くことができる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権について日々の生活の中で利用者の尊厳が保たれる様に管理者がミーティング等で話をしている 内部研修等の中で折に触れ人権について考える機会を設けている	毎年、法人が統括する研修に人権教育が組み入れられており、事業所職員が参加している。参加できない職員には資料を回覧して伝達研修としている。今後は、オンラインの外部研修への参加も検討している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に参加している 興味のある研修や認知症介護実践者研修等スキルアップできるようにしている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加の際他事業所の職員と交流できるよう研修参加を促している		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始（契約）前に本人・家族と面会したり、施設や病院等の職員から聞き取りを行っている		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始（契約）前に家族に施設見学をして頂き、その際聞き取りを行っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要とされていることを挙げ、優先順位を決め介護計画に沿って支援するようにしている		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の訴えを傾聴し出来ることは一緒に行っている（洗濯物干し・たたみ、食器拭きなど） 創作活動の壁紙用のパーツ作りなど声掛けし、一緒に行っている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に近況報告をし、要望など家族の意見も聞いている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で馴染みの関係等を聞いて把握に努めている 暑中お見舞いや年賀状を作り家族や親しい人に出すようにしている	コロナ禍で気軽に訪問ができない状況の中、馴染みの人との関係継続のため、暑中見舞いや年賀状を書く支援を行っている。 遠方に住んでいた利用者が、それまで購読していた新聞を取り寄せたり、習慣としていたことを継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士近くの席に配置したりしている 会話中にトラブルになった際は席替えをしたり、職員が仲介に入るようにしている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ユニット2の利用者が1名併設施設に移動あり 本人や家族と会った際は声掛けするよう努めている		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日々の関わりの中で利用者の意向や希望を聴いている 困難な場合は選択肢を提示し、想いを表出しやすいようにしている	職員は日々の関わりの中で、利用者の思いや希望の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族等や関係者から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報は家族等からの聞き取りで確認している 入居後の本人との会話の中からも把握するよう努めている		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の想いや意志を優先した過ごし方をして頂き、本人のその日の情緒や有する力等職員間の申し送りで把握している		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が課題分析し他職員と話し合い評価を行っている それをもとに計画作成担当者が家族の意向を踏まえて介護計画を作成している 家族の面会時に説明を行い、利用者の状況変化があれば都度見直し変更を行っている	介護計画は、利用者と家族の意向を踏まえて、担当職員を中心に他のスタッフの意見を聞いてカンファレンスで検討して作成している。利用者と家族の同意を得ている。3ヶ月に1回、または利用者の状態変化に応じて、介護計画を見直ししている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録以外で申し送りノートを活用し職員間で情報共有を行い、各担当職員を中心にモニタリングを実施し、見直しを行っている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の記録（ケース記録など）に本人の訴え（ニーズ）を記録し職員間で共有し、都度支援の変更等を行っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回のペースで開催されているUR主催の「にこにこカフェ」や年に数回開催される自治会主催のサロンなどに参加している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に法人の医療機関を紹介しているが、希望する医療機関をかかりつけ医とすることはできる体制を作っている 他医療機関への受診対応は基本家族にお願いしているが、受診の送迎や薬の処方の上申など職員だけで対応する事もある	利用者や家族が希望する医療機関による受診を支援している。家族等と受診時の通院介助の方法について話し合い、診察結果は情報を共有して連携して対応している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告・相談し合いながら適切な対応ができるようにしている		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人の医療機関と連携を取り定期的に情報収集を行っている 他医療機関の際は家族と連携を取り合って現状把握に努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居（契約）時に重症化や終末期に向けた方針について説明し意向の確認を行っている 主治医・家族と話し合い併設の特養の看護師とも連携を図りながら職員全員で取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針が明文化されており、医療、介護が連携して最大限の援助ができるよう努めている。利用者や家族の意向を大切にしながら、かかりつけ医や職員も含めて話し合い、方針を共有して支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行われている内部研修に参加し共有している		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設の特養と合同で避難訓練を実施している そのうち1回は夜間を想定して実施 6月に消防署立ち合いのもと避難訓練を行った 消火器の使用方法を実際に疑似体験し、事前に地域の方々にも参加の声掛けを行い1名参加頂いた	年2回、消防署員の協力を得て避難訓練を行っている。うち1回は、夜間を想定して実施している。非常用備品は併設の特別養護老人ホームに保管している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の尊厳を大切に考え、明るい挨拶を心掛けている 部屋の扉を開けたまま介助をしない等細かいことに配慮して支援している 管理者は職員の気になる発語等があれば都度声掛け指導を行っている 内部の接遇研修に参加し意識の向上を図っている	利用者一人ひとりの人格を大切にし、プライバシーを確保するための内部研修を行っている。管理者は、介護現場で状況を確認し、気になることがあれば、その都度職員に指導を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	茶話会時に何が飲みたいか聞いたり、更衣の際服と一緒に選んだり、テレビ視聴時に何が観たいか等自己決定できる機会を作っているようにしている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて過ごしたいと思われる方には居室にて過ごして頂き、ホールにて過ごされている方には寂しさや不安を感じさせないようにレクリエーションを楽しんで頂いている レクリエーションへの参加も無理強いせず個々の自由時間を大切にして頂く様声掛けするようにしている		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が施設内で理美容を受けられるように訪問理美容を実施している 化粧を希望される利用者には朝起きられたら自ら化粧が出来るようにセッティングを行っている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房で作った食事を提供している為食事を一緒に作ることはできないが、利用者は職員と一緒に台拭きをしたり、箸やコップを洗ったり拭いたりしてもらっている 下膳車で食器を厨房に返す際職員と一緒に持って行く事もある	利用者と職員は、食事の準備や片づけを一緒に行っている。クリスマス会では、ケーキ作りも一緒に行っている。職員は、利用者一人ひとりの嗜好を把握して、行事食等でリクエストに応えている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や硬さなど利用者に合わせて変更している 水分摂取量の少ない方には嗜好に合わせて甘くしたり、ジュースを提供するなど味を変えたりしている		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし必要に応じて介助している		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し定期的に声掛けトイレ誘導している 尿量に応じてパットの種類を変更する等利用者一人ひとりについて見直しを行っている	排泄チェック表を基に、トイレ誘導を行っている。月1回、開催しているケアカンファレンスで、利用者の排泄状況と改善について話し合っている。おむつやパットを使用する際は、利用者一人ひとりについて常に見直しを行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取を促し、食後は便意が無くても便座に座る時間を設けている 毎日テレビ体操やペダル漕ぎなど運動への参加を促している		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は週2回を基本としているが体調や希望によっては入浴日や時間を変更したり、清拭に切り替えたりして対応している 入浴拒否があった際は時間をずらして再度声掛けしたり、入浴日を変更したりして対応している	入浴は基本的には週2回と設定しているが、毎日入浴の準備をしており、希望があれば入浴できるようにしている。入浴を望まない利用者については、言葉かけや対応の工夫によって、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときは一緒にフロアでテレビを視聴してもらったり、おしゃべりをして過ごしてもらっている 居室の温度にも配慮し冷暖房の調整や布団（掛物）を調整している 必要に応じて家族に掛物を依頼する事もある		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と照らし合わせ2名でダブルチェックしながらセティングしている 与薬の際も2名で声出し確認を徹底している 介護職員は様子観察し、異常があれば看護師に報告・相談するようにしている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は決めていないが無理強いはず出来る事をして頂く様にしている 嗜好品に関してはコーヒーや紅茶など、茶話会やおやつに合わせて提供している 必要に応じてお菓子や果物・ご飯のお供など家族に差し入れして頂く様にしている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回開催されている「にこにこカフェ」に参加する為戸外に出たりしている (家族にも声掛けし一緒に参加) 3か月に一度ではあるがかかりつけ医（法人医療機関に限る）に受診する際車椅子で移動し、戸外に出て景色を楽しんでもらっている	天気や利用者の希望に応じて、敷地内を散歩している。地域ボランティア主催のニコニコカフェに参加している。また、地域ボランティアの協力を得て、外出支援の充実を検討している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があればお金を所持して使える体制はあるが、現在希望者はおられない		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をしたいと言った希望は無いが、家族や友人などから電話があった際は取り次いで支援している 暑中見舞い・年賀状を家族や親しい方に作成し出している		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者各々が居心地よく過ごせるように個々の希望や特性で席の配置など工夫している 共有空間は定期的に窓を開け換気し太陽光が直接当たらないようカーテンで調整している 利用者と職員と一緒に手作りした季節の装飾を飾り季節を感じて頂くよう工夫している	共用空間には、季節を感じさせる飾り物が飾られている。明るさや温湿度は、快適に過ごせるように調整されている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	都度席を移動したり、利用者がどなたとも仲良くできるように配慮している 月1回の行事はできるだけ2ユニット合同で行い交流を図っている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のベッドの位置を変えたり利用者の身体状況に応じて過ごしやすいように工夫している 家族の写真や自宅で使用していた時計・ラジオ・クッション・掛物など利用者の馴染みのものを自由に持ち込んでもらっている	家族写真や飾り物、アルバム、お気に入りの掛布団等が持ち込まれている。生まれ故郷の新聞を購読している利用者もいる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安心・安全に移動できるように動線の確保に心掛けている 物の配置は極力変えないようにしている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域住民の一人としてその人らしい暮らしを続けられるように支援する事を理念として掲げ、フロアミーティングなどで唱和し、日頃の実践に繋げるよう努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回のペースで開催されているURコミュニティ主催の「にこにこカフェ」や年に数回開催されるフェスタ・マルシェや自治会主催のサロンなどに利用者とその家族で参加し交流している		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症について話をしたりして地域の人々に向けて発信している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議で利用者やサービスの実際を報告し話し合っている 評価への取り組みとして6月に消防署立ち合いの避難訓練を行った 事前に地域の人達にも声掛けし発信して、参加を頂いた		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の職員と直接連絡を取り合うことはほとんどないが、いきいきセンターの担当職員とは2ヶ月に一度の運営推進会議で事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築くよう取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の特養と共に身体拘束廃止委員会を設けて、年に2回身体拘束についての研修会を開き、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員を中心に毎月委員会に参加し報告する事で職員一人一人が注意を払い、虐待防止に努めている 年に2回研修会を開き学ぶ機会を持っている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット1の利用者が1名成年後見制度を利用中である 内部研修等で職員が学ぶ機会を設けている 日常生活自立支援事業は実際に各々のプランの見直し時や日々の業務の中で自立支援を前提に話し合っている		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際家族や利用者の不安が少しでも軽減できるように、説明を行う様にしている 後日いつでも質問に答えられる環境を整えている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日頃の関わりの中で意見や思いを把握し、レクリエーション活動や食事等意見を反映している 家族については面会時に積極的に意見を聞くように声掛けしている		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族からは外出の機会を増やして欲しいとの意見が多く、地域交流も兼ねて地域のイベント等に参加し外に出る機会を作っている 管理者は日頃から職員の表情や勤務態度に目を向け必要に応じて面談をしている 職員は各委員会活動時やミーティング時に、職場の安全衛生や業務改善について意見を述べる等している		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップのために外部研修等への参加を促している 年3回賞与時に自己評価を行なっている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別・年齢等制限なく幅広い世代で採用している 職員の能力向上の為認知症介護実践者研修等の受講を推進している 職員の得意分野を活かせるように行事等の企画を任せている		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権について日々の生活の中で利用者の尊厳が保たれる様に管理者がミーティング等で話をしている 内部研修等の中で折に触れ人権について考える機会を設けている		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に参加している 興味のある研修や認知症介護実践者研修等スキルアップできるようにしている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加の際他事業所の職員と交流できるよう研修参加を促している		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始（契約）前に本人・家族と面会したり、施設や病院等の職員から聞き取りを行っている		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始（契約）前に家族に施設見学をして頂き、その際聞き取りを行っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要とされていることを挙げ、優先順位を決め介護計画に沿って支援するようにしている		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の訴えを傾聴し出来ることは一緒に行っている（洗濯物干し・たたみ、食器拭きなど） 創作活動の壁紙用のパーツ作りなど声掛けし、一緒に行っている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に近況報告をし、要望など家族の意見も聞いている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で馴染みの関係等を聞いて把握に努めている 暑中お見舞いや年賀状を作り家族や親しい人に出すようにしている 以前の居住地の新聞（地方誌）を取り寄せ購読されている		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士近くの席に配置したりしている 会話中にトラブルになった際は席替えをしたり、職員が仲介に入るようにしている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が1名併設施設に移動あり 本人や家族と会った際は声掛けするよう努めている		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日々の関わりの中で利用者の意向や希望を聴いている 困難な場合は選択肢を提示し、想いを表しやすいようにしている		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報は家族等からの聞き取りで確認している 入居後の本人との会話の中からも把握するよう努めている		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の想いや意志を優先した過ごし方をして頂き、本人のその日の情緒や有する力等職員間の申し送りで把握している		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が課題分析し他職員と話し合い評価を行っている それをもとに計画作成担当者が家族の意向を踏まえて介護計画を作成している 家族の面会時に説明を行い、利用者の状況変化があれば都度見直し変更を行っている		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録以外で申し送りノートを活用し職員間で情報共有を行い、各担当職員を中心にモニタリングを実施し、見直しを行っている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の記録（ケース記録など）に本人の訴え（ニーズ）を記録し職員間で共有し、都度支援の変更等を行っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回のペースで開催されているUR主催の「にこにこカフェ」や年に数回開催される自治会主催のサロンなどに参加している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に法人の医療機関を紹介しているが、希望する医療機関をかかりつけ医とすることはできる体制を作っている 他医療機関への受診対応は基本家族にお願いしているが、受診の送迎や薬の処方の上申など職員だけで対応する事もある		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告・相談し合いながら適切な対応ができるようにしている		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人の医療機関と連携を取り定期的に情報収集を行っている 他医療機関の際は家族と連携を取り合って現状把握に努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居（契約）時に重症化や終末期に向けた方針について説明し意向の確認を行っている 主治医・家族と話し合い併設の特養の看護師とも連携を図りながら職員全員で取り組んでいる 6月に1名看取りケアを行った		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行われている内部研修に参加し共有している		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設の特養と合同で避難訓練を実施している そのうち1回は夜間を想定して実施 6月に消防署立ち合いのもと避難訓練を行った 消火器の使用方法を実際に疑似体験し、事前に地域の方々にも参加の声掛けを行い1名参加頂いた		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の尊厳を大切に考え、明るい挨拶を心掛けている 部屋の扉を開けたまま介助をしない等細かいことに配慮して支援している 管理者は職員の気になる発語等があれば都度声掛け指導を行っている 内部の接遇研修に参加し意識の向上を図っている		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	茶話会時に何が飲みたいか聞いたり、更衣の際服と一緒に選んだり、テレビ視聴時に何が観たいか等自己決定できる機会を作るようにしている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて過ごしたいと思われる方には居室にて過ごして頂き、ホールにて過ごされている方には寂しさや不安を感じさせないようにレクリエーションを楽しんで頂いている レクリエーションへの参加も無理強いせず個々の自由時間を大切に頂く様声掛けするようにしている		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が施設内で理美容を受けられるように訪問理美容を実施している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房で作った食事を提供している為食事を一緒に作ることはできないが、利用者は職員と一緒に台拭きをしたり、箸やコップを洗ったり拭いたりしてもらっている 下膳車で食器を厨房に返す際職員と一緒に持っていく事もある		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や硬さなど利用者に合わせて変更している 水分摂取量の少ない方には嗜好に合わせて甘くしたり、ジュースを提供するなど味を変えたりしている		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし必要に応じて介助している		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し定期的に声掛けトイレ誘導している 尿量に応じてパットの種類を変更する等利用者一人ひとりについて見直しを行っている		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取を促し、食後は便意が無くても便座に座る時間を設けている 毎日テレビ体操やペダル漕ぎなど運動への参加を促している		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は週2回を基本としているが体調や希望によっては入浴日や時間を変更したり、清拭に切り替えたりして対応している 入浴拒否があった際は時間をずらして再度声掛けしたり、入浴日を変更したりして対応している		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときは一緒にフロアでテレビを視聴してもらったり、おしゃべりをして過ごしてもらっている 居室の温度にも配慮し冷暖房の調整や布団（掛物）を調整している 必要に応じて家族に掛物を依頼する事もある		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と照らし合わせ2名でダブルチェックしながらセティングしている 与薬の際も2名で声出し確認を徹底している 介護職員は様子観察し、異常があれば看護師に報告・相談するようにしている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は決めていないが無理強いはせず出来る事をして頂く様にしている 嗜好品に関してはコーヒーや紅茶など、茶話会やおやつに合わせて提供している 必要に応じてお菓子や果物・ご飯のお供など家族に差し入れして頂く様にしている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回開催されている「にこにこカフェ」に参加する為戸外に出たりしている (家族にも声掛けし一緒に参加) 3か月に一度ではあるがかかりつけ医（法人医療機関に限る）に受診する際車椅子で移動し、戸外に出て景色を楽しんでもらっている		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があればお金を所持して使える体制はあるが、現在希望者はおられない		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をしたいと言った希望は無いが、家族や友人などから電話があった際は取り次いで支援している 暑中見舞い・年賀状を家族や親しい方に作成し出している		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者各々が居心地よく過ごせるように個々の希望や特性で席の配置など工夫している 共有空間は定期的に窓を開け換気し太陽光が直接当たらないようカーテンで調整している 利用者と職員と一緒に手作りした季節の装飾を飾り季節を感じて頂くよう工夫している		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	都度席を移動したり、利用者がどなたとも仲良くできるように配慮している 月1回の行事はできるだけ2ユニット合同で行い交流を図っている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のベッドの位置を変えたり利用者の身体状況に応じて過ごしやすいように工夫している 家族の写真や自宅で使用していた時計・ラジオ・クッション・掛物など利用者の馴染みのものを自由に持ち込んでもらっている		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安心・安全に移動できるように動線の確保に心掛けている 物の配置は極力変えないようにしている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
			○	③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない